

## General Osawa ジェネラル大澤



会話を通じて一人でも多くの人に、「釣って簡単に楽しい」と思ってもらえる手伝いをしたい。

サンデーアングラー時代、潮の良い週末には決まった仲間と干潟や港湾部に釣行を重ね、とにかくシーバスの数を釣ろうと躍起になっていた。当時のシーバスを狙うシチュエーションは夕間詰から夜間の釣りが主体であった。まだリップの長いルアーが多かったので、浅いポイントにルアーを通すのは容易ではなく、長いロッドを立てて極力表層をゆっくりと引くようにして釣果を出していた。ある日、釣友からこのルアーが釣れるらしいぞと薦められ釣具店に探しに行く。

ミノーといえはリップの付いているものだという先入観があり、目にしたルアーで本当に釣れるのか？と疑問を抱いたのがomonoSF-125だった。どの様にして泳ぐのか？使い方は？とお店のスタッフに質問をぶつけてみた。スタッフは今までに無い泳ぎで、何よりロッド操作を行わなくても表層を引けると説明してくれた。また、実際に自分が使ってみて使い易さや釣果は革新的だったと体験談を話してくれた。

その話を聞いて自分が釣った気になる程こちらが釣られていた。釣り場にomonoを持っていき、竿を振るとスタッフの言葉通りに表層を引いた。すると驚いたことにシーバスが「桁釣果であった。その時、「釣具店スタッフって凄い」と感心し、彼らはアングラーにとって身近な先生のような存在なんだと確信した。

シーバスが数多く釣れるようになり、次第に数や大きさにこだわらなくなり、釣り場のロケーションなども気にするようになってくる。ソルトをメインにした各雑誌に興味を持つようになり、有名アングラーの載っている記事を読み、自分もこの

人の様に景色の良い場所で大いシーバスを釣りたいという気持ちが大きくなった。清流域で釣るリバーシーバスや外洋に面したサーフ、磯へとフィールドを移していくようになり、大きさや数釣りを目的としてきた釣りが、いつの間にか可愛いサイスでも綺麗な魚に会うことに喜びを感じる様に変化してきている自分に気がついた。そんな期間が5年程続き、気がつけば釣具業界に入っていた。自分の中の釣りは、単にストレス解消の一つではなく生活のリズムとなり、無くてはならない存在になっていた。

北海道や東北、四国から九州へと釣り場を巡ることによって各地域のアングラーとも釣り場で交流を持ち、知り合いもたくさん増えた。もちろんRED氏の人柄や力添えが大きい。彼は私が尊敬するアングラーの一人だ。今の私があるのは、RED中村氏という有名アングラーが側にいてくれたお蔭だと思う。

これから私に出来ることは、各小売店を回り、担当スタッフを通して来店していただいているアングラーの皆様に色々な釣りを提案していくことだと考えている。皆さんには、お店で私を見かけたらどんな質問をしてほしい。会話を通じてimaという商品を知ってもらい、私たちがこの距離感を縮め「釣って楽しくて簡単だ」と実感してほしい。そうすることでひとつの釣り方や、釣果だけが釣りの全てではないということをご皆さんに知ってもらえればこれに勝る喜びはない。私たちも、釣り場やお店でのアングラーとの出会いがとても楽しく、新鮮に感じる。その喜びを胸に、これからもずっと釣りを続けていこうと思っている。